

映像メディアと民俗学

——柳田国男という事例

映像メディア、民俗学、柳田国男

原田 健一

民俗学を創始した柳田国男と、近代に登場した映像メディアとの関係を検討し、日本における「知」の形成過程を明らかにすることを目的とする。柳田は写真や映画といった視聴覚メディアに強い関心を示しつつも、それらを研究ツールとして十分に活用するには至らなかった。その背景には、映像メディアの技術的制約に加え、記録の客観性を重視し、前近代的な想像力に依拠する柳田の方法論的限界があったことが考えられる。また、写真の図画化や重出立証法、トーキー映画への期待といった具体的事例を通じ、民俗学と映像メディアの齟齬と可能性を分析した。柳田の試行錯誤は、近代メディアと学知の関係を考えるうえで重要な示唆を与えるものである。